

消防自動車写生大会

	町長賞 ゆうきしゅんた 有木駿太 朝上小学校 3年
	防火協会長賞 やまだ ゆづき 山田唯月 千種小学校 2年
	町議会議長賞 ふくた ゆめ 福田結萌 千種小学校 1年
	中日新聞社賞 まつおかとう や 松岡桃弥 竹永小学校 3年
	教育長賞 おおはしあい な 大橋愛那 菺野小学校 4年
	消防長賞 うめだ ゆり 梅田優里 菺野小学校 5年
	消防団長賞 たなかのぞみ 田中希美 菺野小学校 4年

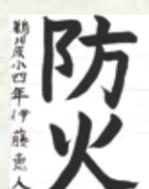
※敬称略

今後の作品展示予定

令和6年の秋の火災予防運動にあわせて、今回の入賞作品をイオンタウン菺野モール棟に展示します。

令和6年 11.8(金) ▶ 11.21(木)



	町長賞 いとうゆう か 伊藤優花 朝上小学校 4年
	防火協会長賞 うちだ けいた 内田啓太 菺野小学校 6年
	町議会議長賞 うちだ ひな 内田陽愛 朝上小学校 6年
	中日新聞社賞 おか みゆう 岡美佑 菺野小学校 5年
	教育長賞 まつばら 松原すずほ 千種小学校 6年
	消防長賞 やの いおり 矢野衣央莉 竹永小学校 5年
	消防団長賞 いとうけいと 伊藤恵人 鶴川原小学校 4年

防火書道コンクール

町 防火協会は、作品の発表を通して園児や児童の防火意識を高めるために、防火書道作品を募集し、消防自動車写生大会を開催しました。書道コンクールには434点の応募があり、写生大会には66名が参加し、それぞれ最優秀賞7名、優秀賞10名、佳作10名が選ばれました。今月号では、最優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。



菺野町交通安全作文コンクール表彰式

菺野町交通安全協会会長賞 伊藤珠結 (千種小4年)
菺野町教育長賞 渡部陽愛 (八風中1年)
菺野町長賞 多田ひめり (菺野中2年)
四日市西地区交通安全協会会長賞 青山奈央 (鶴川原小5年)
菺野町議会議長賞 小島暖弘 (朝上小6年)
四日市西警察署長賞 福本尚大朗 (竹永小5年)
菺野U-1ライオンズクラブ会長賞 林 琴乃 (菺野小5年)

※敬称略

菺野町を安全なまちに 交通安全作文コンクール

交 通安全を題材にした作文コンクールの入賞者7人の表彰式を9月30日に役場本庁で開催し、菺野町長賞に選ばれた多田ひめりさんが入賞者を代表し作品を発表しました。このコンクールは町内の小中学生を対象に募集したもので、901人から作品が寄せられました。

交通事故について考える

菺野中学校2年 多田ひめり

最近、よく耳にするニュースがあります。それは高齢者の交通事故です。何故そのような事故が起きているのか気になり調べてみると、「免許返納を拒み交通事故」という記事が目に入りました。交通事故を起こしてしまったのは90歳の男性で、家族から何度も免許を返納するように促されていたらしいのですが、彼は昔ながらの頑固な性格から、「俺は大丈夫」と自分を過信し拒み続けました。その結果、交通事故を起こしてしまったのです。私はその記事を見た時、「自分は大丈夫」と過信してしまう気持ちが分かるような気がしました。

「歩きスマホ」や「脇見運転」からの交通事故ということもよく耳にするようになり、実際歩きスマホに関してはたくさん見かけますし、私もしたことがあります。その時は、周りにたくさんの人がいるし自分は大丈夫だろうとスマホの操作に夢中になってしまいました。今思うと、あの時事故にあってもおかしくなかったんだと、ヒヤッとなりました。これも過信からくる油断です。他にも、家族が運転中に携帯に送られてきたメッセージを気にする様子を見たことがあります。これも過信と油断からの脇見運転です。誰しもが年齢に関わらず、歩きスマホのような「ながら行為」や「脇見運転」という行為をしたことがあるのではないのでしょうか。こういった過信と油断が事故に繋がってしまうんだと、改めて感じました。



交通事故はいつ、どこで起こるか分かりません。ダメだと分かっているとしても、「少しぐらいなら」と油断し、気をつけていれば防げた事故も数えきれないほどあると思います。私は、まだ車の運転はできませんが、自転車には乗りますし、大人になって車を運転するようになったら大きな事故を起こし加害者になるかもしれないです。交通事故とはとても身近な出来事だということ、過信と油断はしないことと常に意識して生活していけば、事故は減っていくと思えました。

後期高齢者の免許に関しては、自動的に解除した方がいいのではないとも言われていますが、現状では、生活のために買い物、病院などに行くことを自分自身でやらなければならない人がいて、「過信」だけで免許の返納を拒んでいるわけではない人たちがたくさんいます。そこで、免許を返納しても生活に支障が出ないように、高齢者にも気軽に利用できる移動サービスを作ったり、公共交通機関を整備したりしていくことも、交通事故を減らす一歩になると私は思います。

過信や油断はいけません。さまざまな環境や事情を抱えた人がいる中で、意識を持ってもらえような機会、そうさせないための整備など、さまざまな方向から対策を考えていくことも大切だと思えます。

問い合わせ
消防本部予防課
TEL 394-3238
FAX 394-5766

